

2020年度 芸術科「音楽Ⅰ」シラバス

科目	音楽Ⅰ	単位	2	学年	1年	使用教科書 副教材	高校生の音楽 1 (教育芸術社) 高校生の歌集 つどい(九州音楽教育研究会編)
----	-----	----	---	----	----	--------------	--

1 科目の目標及び評価方法

科目の目標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生涯にわたって音楽を愛好していこうとする心情や態度を育む。日本及び世界の様々な音楽にふれ、楽曲そのものだけでなく、その背景となる文化や歴史についても理解を深め、幅広い視野で音楽を捉えられるようになる。
評価方法	定期考査・・・40% 実技テスト・・・40% 提出物・授業態度・発表点・その他等・・・20%

2 音楽Ⅰの評価の観点、規準

	①音楽への関心・意欲・態度	②音楽表現の創意工夫	③音楽表現の技能	④鑑賞の能力
観 点	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	楽曲の諸要素を知覚し、それらの働きを感受しながら表現を工夫し、表現の意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を近くし、それらの働きを感受しながら、解釈したり価値を考へたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。
規 準	楽曲の背景との関わり、曲想を生み出している音楽的な特徴に関心をもち、主体的に取り組もうとしている。	旋律、強弱、リズム、速度など知覚・感受し、楽曲にふさわしい音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。	イメージをもって音楽表現するために、発声や発音、読譜、楽器の奏法などを身につけ創造的に表している。	楽曲の文化的歴史的背景、作曲家による表現の特徴、演奏者による表現の特徴を理解を深め、良さや美しさを創造的に味わって聴いている。

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	考 査 範 囲	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	主 な 教 材	評 価 の 観 点				評 価 方 法	配 当 時 間
						①	②	③	④		
1 学 期	4	期 末 考 査	【歌唱】豊かな声でハーモニーを楽しもう	①発声の基礎を学び、よい響きの声で歌い、よく調和する響きをつくる。	「校歌」 「翼をください」 「ひまわりの約束」	○	○	○		a	4
	5		【歌唱】イタリア語の歌曲を歌ってみよう	①イタリア語の特徴を理解して、曲想と歌詞の内容から表現方法を読み取る。 ②イタリア歌曲とナポリ民謡に親しみ、曲の持っている表現について創意工夫する。	「O sole mio」 「Caro mio ben」	○	○	○		a c	6
	6		【器楽】ボディーパーカッションに挑戦しよう	①様々なリズムパターンに親しみ、ボディーパーカッションの音色にふさわしい表現になるように工夫する。 ②強弱や拍子感、楽曲の構成など共通のイメージを持ち、アンサンブル主体的に取り組もうとしている。	「Clapping Quartet NO.1」	○	○			a c	5
	7		【鑑賞】オーケストラの楽器とその音色を知ろう	①オーケストラとその楽器の音色、リズム、音楽を形づくっている要素と働きを理解して鑑賞する。 ②楽曲に対する解釈を深め、それぞれの音楽に親しむ。	「ボレロ」 「動物の謝肉祭」 「海」	○			○	a c d	8
2 学 期	9	期 末 考 査	【器楽】三線を弾こう	①工工四を理解し三線の歴史・沖縄の音楽について学ぶ。 ②三線を弾きながら弾き歌いができる。	「安波節」「島人の宝」 「安里屋ユンタ」	○	○	○		a c d	7
	10		【鑑賞】クラシック音楽を味わおう	①シベリウスの曲のもつ雰囲気を感じ取りながら、作品に込められている祖国への思いも感じ取れるようになる。	「フィンランディア」	○				a b c	10
	11		【創作】イメージをもって曲を創ろう	①日常生活をテーマに歌詞をつくり、コード進行にあわせて、旋律を創作する。	各グループによる「創作曲」	○	○	○		a d	5
	12		【鑑賞】クラシック音楽を味わおう②	①シラーの頌歌をもとに、ベートーヴェンの表現した音楽から、その表現意図を読みとろう。	「ベートーヴェン第9番」	○			○	a c d	7
3 学 期	1	学 年 末	【器楽】器楽アンサンブルに取り組み、音楽会を開こう	①グループ発表会を通して、音楽の要素を知覚しながら相互評価をする。 ②グループの興味関心に応じた選曲、楽器編成で自主的な音楽演奏ができる。	「威風堂々」 「木星」	○	○	○		a b d	10
	2		【歌唱】合唱のよろこび	①音楽表現に必要な要素を理解し、それらの働きを生かして歌う。	「Circle Of World」	○	○	○		a b c	8

《評価方法》 a. 授業に対する意欲 / b. 学習ノート / c. ワークシート・自己評価表・相互評価表 / d. 実技テスト・定期考査